

題目

学籍番号 氏 名

要旨

要旨

Title

StudentID Name

Abstract

Abstract

修 士 論 文

題 目

350702101 後藤 隼弐

名古屋大学 大学院情報科学研究科

情報システム学専攻

2008年1月

目 次

第 1 章 緒論	1
1.1 テスト 1	1
第 2 章 準備	2
第 3 章 本論	3
第 4 章 結論	4

第1章 緒論

1.1 テスト1

ここからは、「レポート作成のための TeX」から一歩先に進んで、TeX を活用した情報発信のかたちについて紹介していきたいと思います。こんにちでは、インターネットの普及によって個人が気軽に情報を発信することが可能になりました。研究者が自分の研究成果を公開したり、作家（風な方々も含む）がオリジナルの作品をアップロードすることも一般的になりました。しかしいっぽうで、Web 上での標準的な文書形式である HTML では表現力に限界があります。例えば、漢文であるとか多言語混在文書は表現できません。これまで、このようなテキストは画像として貼りこまれることがほとんどでした。しかし画像の解像度やファイルサイズの問題で、満足いくものができませんでした。日本語の表現形式として一般的な縦書きも HTML で書くには相当の技量と苦労が必要になります。また、仮に HTML で表現しきれたとしても、それを日本語、あるいは各国語フォントのない環境で閲覧した場合、表示されるのはただの文字化けした怪文書です。Word などのアプリケーションで作成したファイルについても、そのアプリケーションがなければ閲覧することはできませんし、Office については同じアプリケーションでもバージョンによって開けたり開けなかったりする、という素敵なことも起こります。

第2章 準備

第3章 本論

第4章 結論

題目

学籍番号

氏名